

## 2013 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成追加公募 決定のお知らせ

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストが公募した「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」追加助成について、計 7 件の企画が採択されました。選考委員についても併せてご紹介いたします。

### 2013 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 助成公募選考委員（あいうえお順）

- 岸田ほたる（元 A SEED JAPAN 事務局長）
- 後藤和明（らでいっしゅぼーや農産部長、Radix の会常務理事）
- 田中 優（未来バンク事業組合理事長）
- 宮田秀明（摂南大学名誉教授／環境科学、食品衛生学、公衆衛生学）
- 森 撰（オルタナ編集長）
- 安田節子（食政策センター ビジョン 21 主宰人）
- 山田敏郎（金沢大学教授 大学院物質科学専攻長／化学工学、蜂群崩壊症候群研究）
- 古瀬繁範（地球と未来の環境基金理事長）
- 星川 淳（アクト・ビヨンド・トラスト理事長）

### 「ネオニコフリーを広げるための棚田を切り口とした学習会・食事会、フォーラム開催による人材育成、普及啓発事業」

特定非営利活動法人 棚田 LOVER's(申請者:永菅 裕一)

助成金額: 499,900 円 【広報・社会訴求部門】

ネオニコフリーを広げるために棚田を切り口として、下記の農・食の普及啓発事業を行う。

- ① 9 月 15 日（日）ネオニコチノイド系農薬の現状の理解度を把握するアンケート調査、学習会の実施
- ② 11 月 16 日（土）農村でのネオニコチノイド系農薬を使っていない食事会の開催
- ③ 12 月 15 日（日）ネオニコフリーを広げるための農や食のことを学びあう学習交流会の開催
- ④ 3 月 1 日（土）上記をまとめ・ネオニコフリーを広げるフォーラムの開催 その後報告書作成  
上記を行うことで、ネオニコフリーや農や食、棚田に関心を持つ人を育て、ネオニコフリーが広がる。

### 「斑点米カメムシ類による経済的損失回避策の転換に関する秋田県への要請」

米の検査規格の見直しを求める会(申請者:山浦康明)

助成金額: 159,600 円 【政策提言部門】

近年、多くの稲作県で斑点米カメムシ類の多発が問題となり、行政や JA が農家に「カメムシ徹底防除」を呼びかけています。カメムシ防除用殺虫剤は水田で使用される殺虫剤の中で最多で、とりわけネオニコチノイド系殺虫剤の使用が増えています。これはカメムシ被害による農家の経済的損失を回避するためですが、より合理的な損失回避策があり、それを最も受け入れ易い環境が整っているのが秋田県です。したがって、消費者団体等が県知事を訪れ、直接説明することで提案を受け入れてもらい、また、報道等を通じて全国に波及することを期待しています。

### 「有害農薬の規制を目指す持続可能な農業キャンペーン」

グリーンピース・ジャパン(申請者:佐藤 潤一)

助成金額: 1,250,000 円 【調査・研究／広報・社会訴求／市場“緑化”／政策提言部門】

ミツバチに対しての毒性が禁止農薬 DDT の最大 7297 倍ともいわれ、生態系に深刻なダメージを与える

<p>農薬ネオニコチノイドを規制するため、ヨーロッパではグリーンピースなどの NGO と生産者、消費者がともに活動を展開し、2013 年 7 月に EU での使用禁止が決定された。日本でもネオニコチノイド系農薬に関する研究成果が発表されてメディアでも取り上げられるようになってきたが、消費者の関心はまだ広がっておらず、規制に向けた一般市民向けのキャンペーン活動（パブリックキャンペーン）を展開する必要がある。グリーンピースは消費者に広くこの問題をコミュニケーションし、ともに行政、農薬化学会社らへの働きかけを行う。これはグリーンピースが 2014 年より 4 月より開始する「持続可能な農業キャンペーン（仮）」の二つの柱のうちの一つである。（もう一つの柱は遺伝子組み換えの規制を目指すものであるが、今回の助成と関連する部分以外は遺伝子組み換えの規制を目指すキャンペーンの詳細はここでは省略する）。今回の助成にはパブリックキャンペーンの開始に必要な準備（政策提言策定のための現地ヒアリング調査、コミュニケーション戦略策定のための一般消費者の意識調査、パブリックキャンペーンを展開するためのツール制作など）。</p>
<p><b>「『生きもの認証システム基礎基準』における生きもの観察指導員(Bio アナリスト)養成、『ネオニコフリー農業による地域づくり』のパイロットプロジェクト構築、及びそれらの実績の公表」</b></p> <p>一般社団法人 生きもの認証推進協会(申請者:徳江倫明)</p> <p>助成金額:750,000 円【広報・社会訴求/市場“緑化”部門】</p> <p>ネオニコチノイド系農薬を使用しない農産物の認証システム「生きもの認証システム」は生産者と消費者の交流と学習の場として「生きもの観察会」の実施を推奨している。そのため、(一社)生きもの認証推進協会は生きもの調査のスキルを身につけ、生きもの観察会を指導できる生きもの調査員(Bio アナリスト=生物多様性の調査員)を養成するため、「Bio アナリスト養成講座」を開設する。また有機農業の先進的モデル地域である埼玉県小川町において、「Bio アナリスト養成講座」を実施し、同時に生産者・流通団体・消費者の参加による「ネオニコフリー農業による地域づくり」のパイロットプロジェクトを構築し、「生きもの認証システム」の普及促進を図る。今回の助成希望対象は HP の作成、募集チラシ作成、講習会会場の選定、メールマガジン、ブログ配信等による参加者募集、企業の CSR 部門への案内、営業等広報活動全般に限定している。</p>
<p><b>「空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査(追加申請)」</b></p> <p>竹ノ内敏一</p> <p>助成金額:250,000 円【調査・研究/広報・社会訴求部門】</p> <p>2013 年度企画「空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査」は承認され、申請者らは 6 月に長野県千曲市でサンプリングを実施した。分析は専門機関に委託し順調に進捗しているが、分析検体数を増やしたことや、サンプリング方法、分析方法の見直し等によって分析費は増加した。追加申請では、①委託分析費用の増加分、②分析結果の解析、考察、報告書作成など、コンサルタントに支払う費用の増加分、③現地報告会でもう一人の専門家を招いて講演を依頼するさいの講師謝礼、以上 3 点の費用として 25 万円を申請する。</p>
<p><b>「ミツバチからのメッセージ」</b></p> <p>特定非営利活動法人 F.O.P(申請者:杉浦 歩実)</p> <p>助成金額:217,500 円【広報・社会訴求部門】</p> <p>著書『A Tale Of One Queen Bee～ミツバチからみた蜂群の大量死～』(4za ピポ・treasure garden planet 共同代表後藤純子)のダンスミュージカルを制作し、映像化する。ミツバチの役を演じることで、ミツバチの目線に立ち、そこから見えた環境の現状(ミツバチの生態・大量死)から、これからの生き方(多様な命が存在する豊かな里山ビジョン)を考えられるような作品とする。ミュージカル出演募集対象には自然環境などに関心のない若者が多く含まれるが、ミツバチの学習会や農業のお手伝い等にも参加することを出演の条件にし、今回の作品制作や好きなダンスを通して、伊那谷の最大の価値である自然環</p>

境、自然共生の暮らし、農林業について興味を持つようになり、その姿は、更に無関心層の関心へと繋がっていくと考える。今回はこの作品の構成、参加者の募集広報ツールやメインとなるであろう楽曲の制作を目指す。

## 「フィプロニルを成分とする苗箱施用殺虫剤のリスクを緩和する栽培方法の探索」

神宮字 寛

助成金額:500,000 円 【調査・研究部門】

ライシメータ（実験水田）を用いた野外実験により、水田生物に対する死亡リスクが小さい浸透移行性殺虫剤を探索する。この殺虫剤は、ネオニコチノイド系7種及びフィプロニル以外のものとする。また、畦畔に面した8列の苗にのみ殺虫剤を散布する額縁栽培方法のヤゴへの影響と害虫防除効果を検証する。

[abt サイトのトップに戻る](#)